

農薬を減らしても斑点米は増えません

概要 Abstract

要約：北海道の斑点米カメムシに対する基幹防除2回について、効果が高く残効性の長いジノテフラン液剤、エチプロール水和剤Fを用いると、出穂期防除を省略し、出穂7～10日後に1回防除を行うことで、基幹防除2回と同等の斑点米防止効果があり、基幹防除の効率化が図れる。

- (1) 斑点米防除効果の高い時期は、出穂7日後から14日後の間にある(図1)。
- (2) 出穂7日後1回防除は、基幹2回防除と同等の高い効果がある(図2)。
出穂期1回防除の効果は低く、ふれが大きい。出穂7日後と同10日後1回防除は同等の効果である。
- (3) 「ほしのゆめ」以外の主要品種でも同様の結果であった(図3)。
- (4) ジノテフラン液剤(1000倍)、エチプロール水和剤F(1000～2000倍)は、同等の無防除比5～7の高い斑点米防止効果がある。残効は10日程度。
- (5) 現地での防除体系下においても、出穂10日後1回防除は基幹2回防除と同等の斑点米率を示し、有効性が確認された。
- (6) 以上から、基幹防除期に、出穂7～10日後に1回、効果が高く残効が長いジノテフラン液剤、またはエチプロール水和剤Fを散布する場合、出穂期防除を省略することができる(図4)。



成果 Results

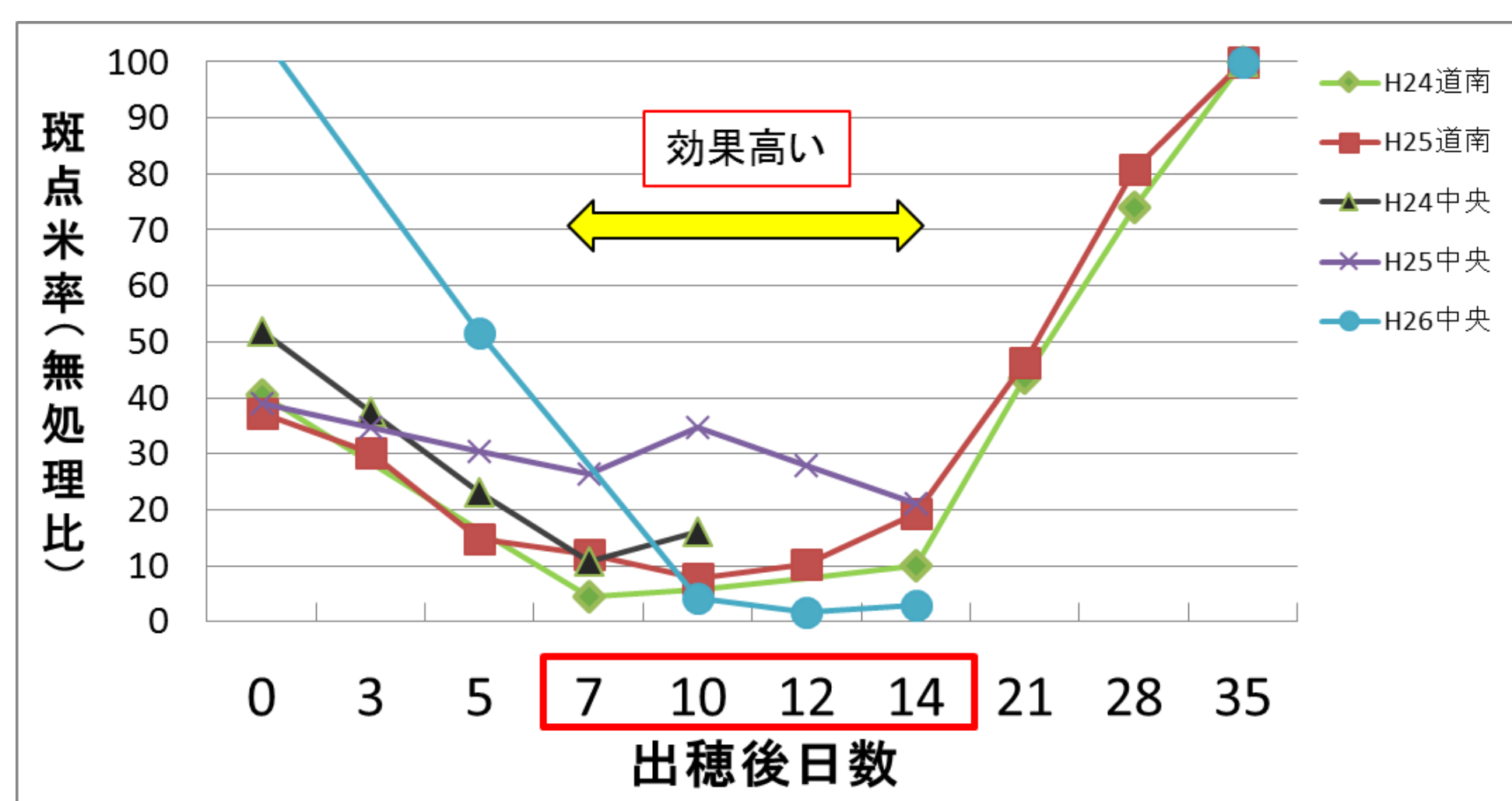


図1 防除時期の検討
時期別1回防除と斑点米率（無処理比）の関係

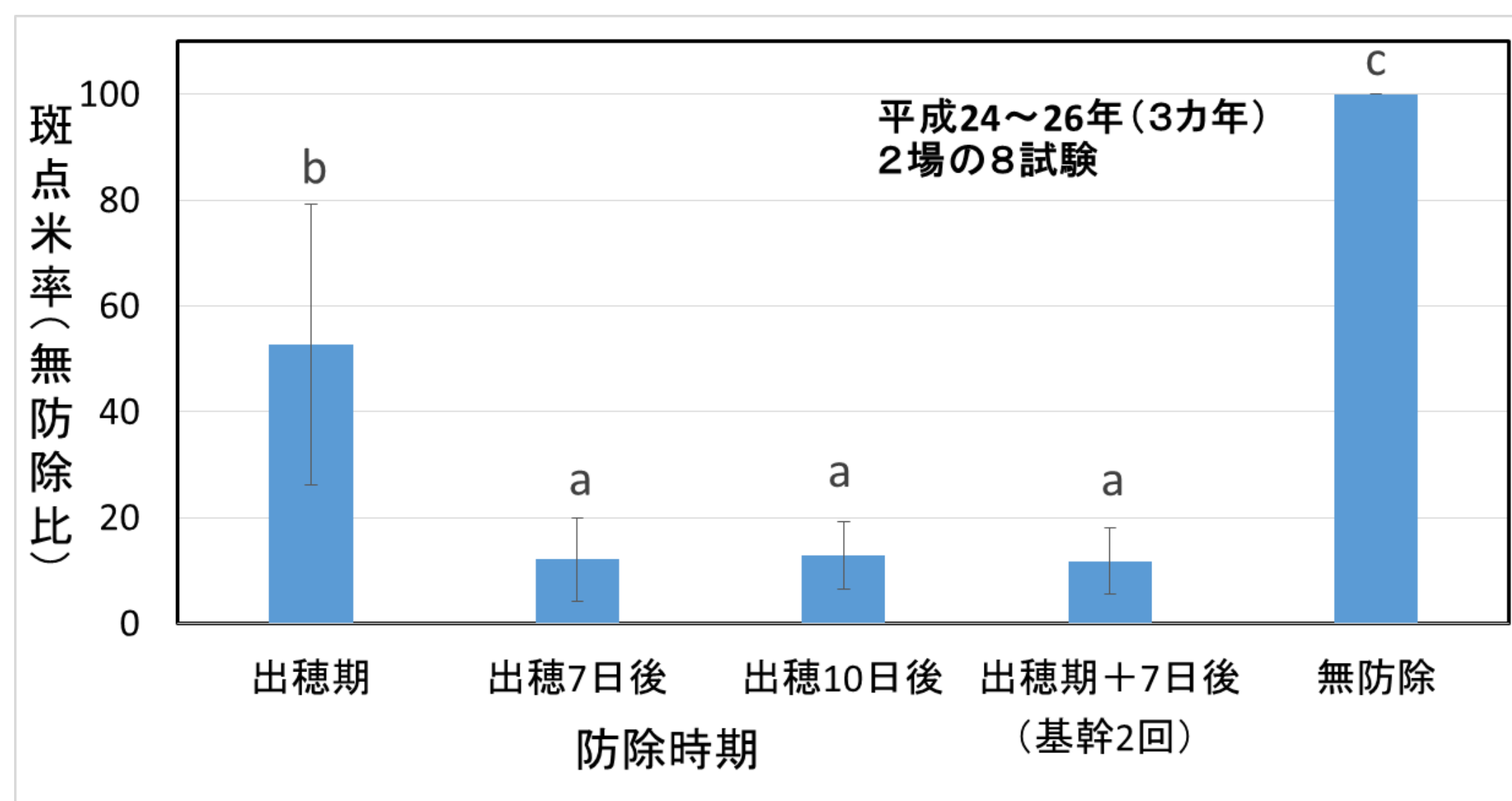


図2 出穂7日後1回防除、基幹2回防除の斑点米防止効果
品種「ほしのゆめ」、散布薬剤：ジノテフラン液剤、エチプロール水和剤F

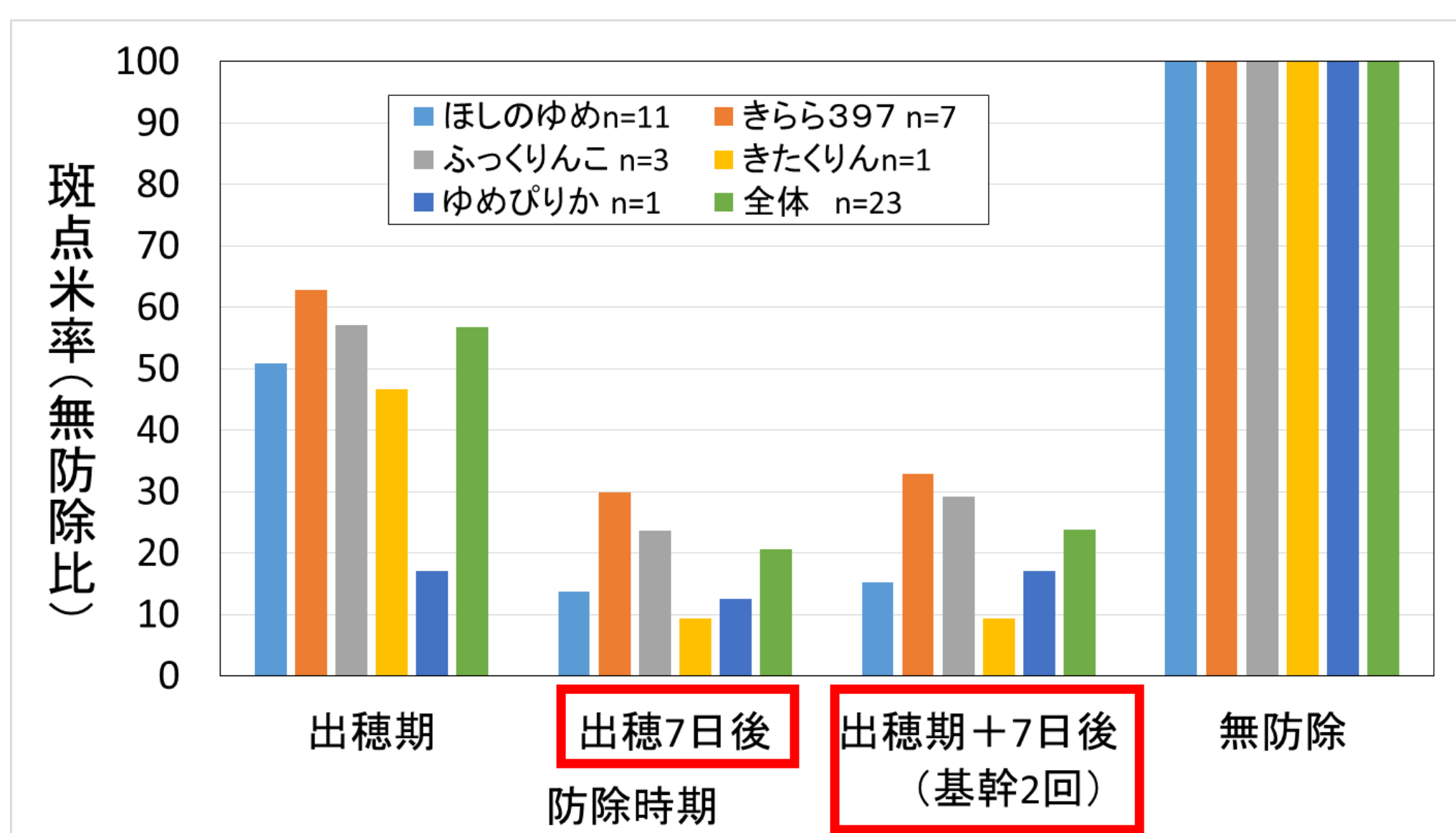


図3 各品種での出穂7日後1回防除、基幹2回防除の斑点米防止効果
散布薬剤：ジノテフラン液剤、エチプロール水和剤F

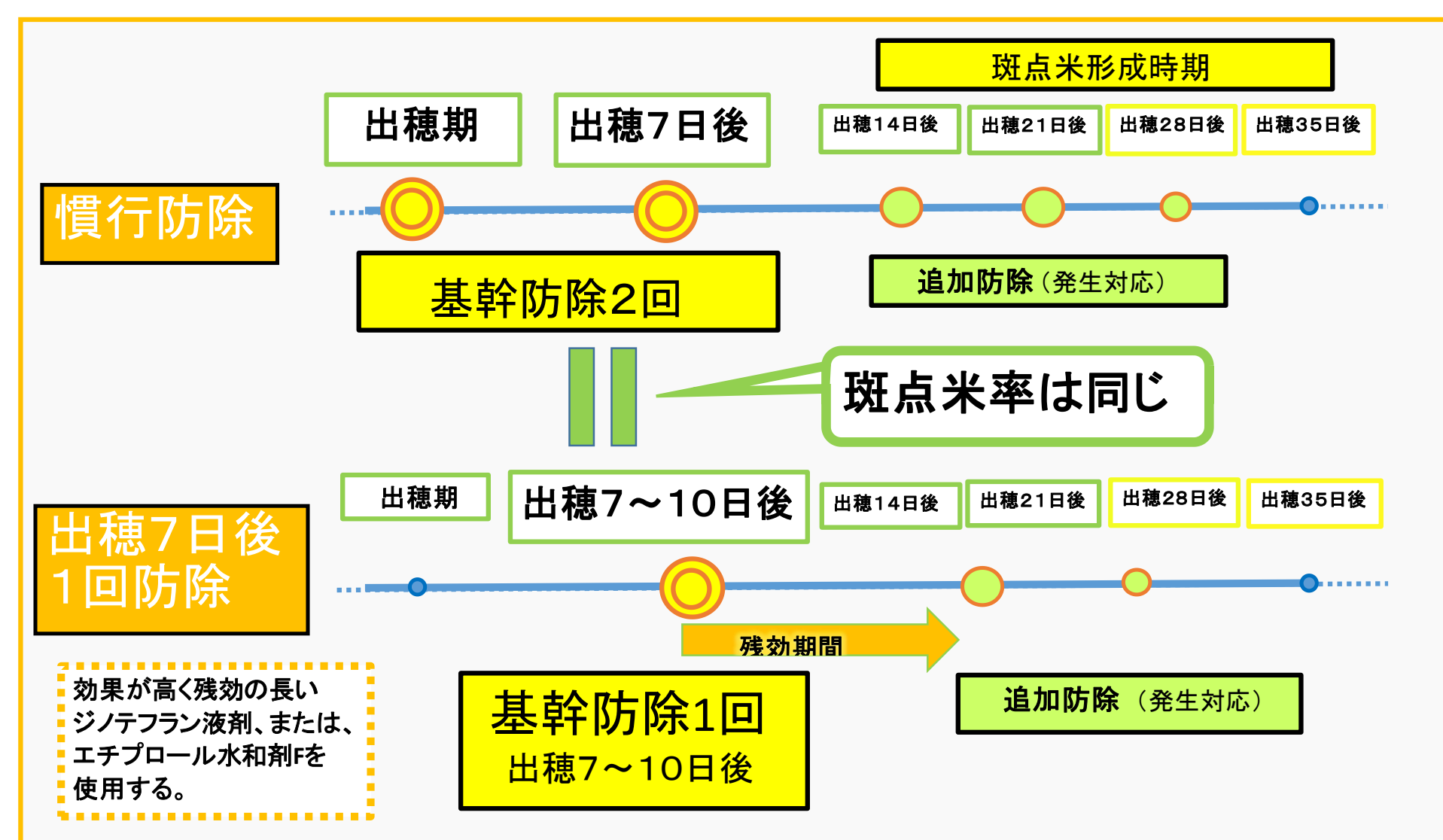


図4 出穂7日後1回防除は基幹2回防除と同じ斑点米防止効果

普及 Dissemination

- (1) 本技術は、斑点米カメムシの基幹防除期における効率的な防除法として活用する。
- (2) 追加防除については、従来通りの方法に従って実施する。

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 クリーン病害虫グループ
0123-89-2001
central-agri@hro.or.jp